



〒 242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: [toiawase@edventure.jp](mailto:toiawase@edventure.jp) URL <https://edventure.jp/>

## 2025年度定期総会と教育講演会の報告

### 【代表挨拶】

春のあたたかさが広がる運動場に響く子どもたちの声を聴きながら、今の時代ほど「学校という場」の問い直しが求められている時代はないのかもしれないと思います。

自ら命を絶ってしまう若者が増えるとともに、低年齢化している現実。そして、学校になじめない子どもたちも増加し、同じく低年齢化しているという現実を突きつけられていると思うのです。

大人も子どもたちも、一人一人がばらばらに切り離され、切り離されるだけではなく競争させられ、人の手を振り払い、強く一步を踏み出すことが良しとされる強者の論理に覆れつつある社会！そういう社会を生き抜いていく力をつけることが「学校の役割」なのか？

それは全く違うと思うのです。多種多様な人間が、ごちゃごちゃとあり続けるための知恵を創り出す場。子どもたちが生まれて初めて体験する「社会」だからこそ、そんな場として学校を再生させたいと、強く願います。

今年は戦後 80 年目を迎えました。改めて「正義の戦争」などないと思います。たとえどんな理由をつけようとも、戦争で得られる幸せはないということを、肝に銘じたいと思います。

しかし残念ながら、戦争の終結は見え、多くの人々の命が奪われています。自国の目先の利益のみに目を奪われ突き進み始めた、不安定な世界のまっただ中にいるということを、私たちは自覚しなければなりません。

私たちは、どんな世界を、どんな社会を創り上げていきたいのかを、しっかり考えなければいけない時を迎えています。

Ed.ベンチャーでは、今年度も以上のことを踏まえ、一人でも多くの人々と手を取り合い、未来の子どもたちが安心して暮らせる日常を作り上げる努力をしていきたいと思っています。

代表のあいさつで始まった定期総会は、2024 年度事業報告・収支決算、2025 年度事業計画・収支予算などの議案を審議し、無事承認されました。

### 【教育講演会】

Ed.ベンチャーでは、昨年より平和教育について取り組んできました。この問題は、冒頭の会長挨拶にもありましたように、現代においては目を背けることのできない問題として世界の各地で起きています。そして、本当に多くの子どもたちや女性たちが命を落としています。こうした現実を目の前にするとき、私たち教育関係者が背負わなければならない役割は、将来の社会を担う子どもたちに「平和の創り手としての力を育むこと」です。

しかし、現実の学校現場では、平和について子どもたちが学び、考える機会や時間も乏しく、まさしく「平和教育」は死語となりつつあるのが現状です。これでは教育基本法にある教育の目的、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」は、やがては理念だけで終わってしまうこととなります。様々な問題が表面化し、手詰まり感がある学校現場だからこそ、平和教育の視点から整理しなおすことで、次のステップへのとっかかりができないかの願いをもって、この問題を取り上げてきました。

今年度は、「今の世界の現実を自分事として未来に向けて受け止める」をテーマに、核兵器をなくすために私たちにできることを少しでも考えていこうという趣旨で、若い世代が手を結んで核兵器のない世界の実現に取り組んでいる田中美穂さんにご講演いただきました。講師の田中美穂さんは、「核政策を知りたい広島若者有権者の会（カクワカ広島）」の共同代表です。「日本はなんで核兵器禁止条約に入っていないのか」という疑問を抱いた若者たちが、「自分たちも今行動を起こさなければいけない」という思いで集まり、活動を続けているそうです。

具体的には有権者で選ばれた広島の国会議員に直接面会をし、核兵器禁止条約に対する賛否や意見を聞き出す活動を続けていらっやいます。そして、面会のアポ取りの進捗状況や、直接面会での回答などは、ウェブサイトや YouTube などで発信しているそうです。選挙の際の意思決定の参考には是非してほしいとのことで、こうした活動を地道に続けていらっやるそうです。

また、地域のある場所を拠点に若者たちがつながっていく活動も、様々な人と交流しながら進めていらっやるとのことでした。

福岡県出身の田中さん。広島に移ってくるまでは、平和教育を受けたはっきりした記憶もないし、核兵器について考える機会もなく、また積極的に考えても来なかった、とのことでした。

それでも、「今何かやらなければ」という思いにかられ、現在はその思いを行動に移している、とお話しされました。

### パネルディスカッション

講演会の後、田中さんを交え、3人の若いパネラーが登場し、パネルディスカッションを展開しました。パネラーは、中学校の男性教員、小学校の男性教員、大学生の女性、でした。パネルディスカッションは、司会者より3つの柱が提示され、それに沿って意見交換が展開されました。

- 1 過去に学校で体験した平和教育を、大人になった今どのように受け止めているか。  
これまでの平和教育は、現在でも有効なのだろうか。
- 2 現在の日本や世界の状況を、どのように受け止めているのか。
- 3 若い世代として、ここまで語られてきた現実や課題にどのように向き合うべきかと考えるか。

この3つの柱に沿ってパネラーはもちろん、講師の田中さんや会場の方からもたくさんの意見や考え方が発表されました。以下にそのいくつかをご紹介します。

- ◎小学校で学習した「ちいちゃんのかげおくり」などは、もうほとんど記憶にない。悲しいお話だな、というだけで終わってしまった。そうしたものは違って、高校の政経・公民で、社会の仕組みや日本の課題を教えてくださいと先生に出会えたのがとても大きく、その時初めて、様々な問題を正面から考えることを学んだ。(大学生女性)
  - ◎自分自身は中国残留孤児の孫の代にあたり、中国の血も入っている。こうした自分にとって大きかったのは、中学校の時に「選択教科国際」という授業があって、そこで自分のことや、周囲の外国ルーツの子どもたちの背景も知ることができてよかった。現代の日本の動きは、本当にお金の動きでしかないのではないかと。NISA や投資熱など、お金を奪い合うことばかりになっていて、何か大事なことが忘れられている。(中学校男性教員)
  - ◎現代の状況は、情報が非常に偏っている現実がある。例えば、「ショート動画」などは、本人の関心の高そうなものばかりを提供するので、それを鵜呑みにすると小学生など絶対に悪影響がある。またそうすると、例えば防衛費増やせ派は増やせばかりの意見に触れ、防衛費減らせ派は減らせばかりの意見を聞くことになる。意見が交差したり、意見交換からお互いが次のステップを見出すことなどなくなってしまう。(小学校男性教員)
  - ◎色々な問題が交差する上に、私たちの生活がある。何かの、誰かの犠牲の上に私たちは平和を享受しているのかもしれない。自分たちが被害者としての過去の歴史は、「かわいそう」で終わってしまうように思う。今を考えるのであれば、今の日本が戦争に加担していないか、知らず知らずのうちに加害の立場に立っていないか、という検証が必要。(講演者)
  - ◎職場でヤングケアラーについて問題提起しても、なかなか共有できなかった現実がある。そんなことはない、で切り捨てられてしまった。(中学校男性教員)
  - ◎何かの犠牲の上に、私たちの現在の平和があるのではないかと感じている。核兵器に関する問題だけでなく、ジェンダーに関する問題などにも責任を負わなければならない若い世代だが、次の世代には残したくない。問題をみんなで分担してでも、前へ進めたい。(講演者)
- ★意見交換が会場も含めておこなわれ、とても活発なパネルディスカッションとなりました。

## これからのEd.ベンチャーの学習会

### ●3月29日(土) Ed.ベンチャー総合学習会@大和市シリウス@612

午前の部 : 10:30~ インクルーシブな社会を目指す学習会

午後の部Ⅰ : 13:30~ 外国人の子ども理解のための学習会 ★修士論文研究発表★  
・移民第二世代女性の進路決定をめぐるダイナミズム (大学院生 河村優花氏)  
・ペルー日本人移民の生活史とアイデンティティに関する一考察 (大学院生 タイペマリエラ氏)

午後の部Ⅱ : 16:15~ 授業研究会★卒業論文研究発表★

- ・脱資本主義の思想としての地方移住の可能性を考える  
—教育観や子育てに対する考え方に焦点を当てて—

(大学4年生 門井みなみ氏)

### ●4月22日(土) 13:45~15:45@大和市シリウス@612 外国人の子ども理解の学習会

国際教室のコーディネーターとしての役割—国際教室担当の実践を通して—  
講師：菊池一輝氏 (大和市中学校教諭)

### ●5月17日(土) @大和市シリウス@603

理論学習会 13:45~15:45 世界情勢と現代社会についての分析

授業研究会 16:15~18:15 現場の報告から、社会と教育の現状を考える

### ●5月24日(土) 外国人の子ども理解のための学習会@オンライン 事例研究会 13:30 ~ 15:30

◆理事のひとこと◆ 年度末を迎えるこの時期、体育館に全校児童が集まり、卒業生を送る会が行われた。全力で歌と言葉を届けた子どもたち。みんなで力を合わせる経験、他学年との交流によって、また一つ成長を感じた。しかし、学校に来られず、その場に参加できなかった児童もいた。学校を歩きたいと思えるような場所にするために、自分にできることを考え、取り組んでいきたい。(SM)